

4月7日に発出された

緊急事態宣言が緩和され、

「新しい生活」が始まる日本。

緊張が緩みつつある「日々」に

差し迫る「第2の危険」について

内閣府防災担当の武田良太大臣に

緊急インタビューを敢行しました

不安定な国内コロナ状況で
危惧される「新たな災害」

世界各国で新型コロナウイルス感染症がまん延し、日本国内でも感染者が1.6万人、死者が8百人を超えるなど、長期にわたり厳しい状況が続いた日本は、感染拡大を食い止めるため、4月7日に新型コロナウイルス感染症に関する初めての「緊急事態宣言」を発出しました。

全国的な外出自粛や休業要請、ソーシャルディスタンスの確保など、国民の皆さまのためまぬ努力の甲斐あって、最近では感染者数が減少に転向。なんとか絶体絶命の状況を脱したものの、いまだ感染経路が不明な感染者が発見されるなど「完全に収束した」とは言えない、とても不安定な状況にあります。そんな中、これから迎える「梅雨・出水」の季節。豪雨や台風などの

「新しい日常」の陰に差し迫る 「新たな災害」が、



↑ 武田大臣、平副大臣、今井政務官が出席した災害からの避難強化を検討するための中央防災会議の様子。

水害が起こる可能性が高まっています。新型コロナウイルス感染症への対応が求められている現状下。自然災害が発生することで起こる「複合災害」への注意が必要です。特に危惧されているのが、人の密集する避難所での「感染爆発」。緊急事態宣言の緩和で緩んだ緊張感を再度高め、これからは「起こるかもしれない複合災害」へ向けた官民双方の防災が、今の日本に求められています。

「基本的対処方針」踏まえ
政府は連携した取組を展開

そこで政府は、3つの「密」の回避など、新型コロナウイルス感染症対策の指針を定めた「基本的対処方針」を策定。今までの災害対策に方針内容を踏まえた避難所の確保や避難方法に関する留意事項を自治体に通知するなど、関係省庁が連携して取り組みを進めています。



↑ 日本赤十字社・大塚義治社長と、災害時の新型コロナウイルス感染症を防止するための意見を交わす武田大臣。

武田良太

府 閣 内
防 災 担 当
大 臣

福智町(赤池)在住の52歳。早稲田大学大学院修了後、亀井静香衆議院議員の秘書を経て、平成15年の衆議院選挙「福岡11区」で初当選。以降、6回連続で当選。現在は、国家公安委員会委員長、行政改革・国家公務員制度・国土強靱化担当、内閣府特命担当大臣(防災)を務めている。

新たな防災対策への常備が
かけがえのない命を守る

防災は、国や地方公共団体による「公助」、地域の住民やボランティア、企業などの連携による「共助」、自ら身を守る「自助」を組み合わせた対応が重要です。今後も政府は、新型コロナウイルス感染症の状況などを踏まえつつ、関係省庁・自治体と連携しながら「複合災害」に対し、万全な対策を整えていきます。

福智町の皆さまも「自らの命は自らで守る」意識を高め、避難経路の確認や飲食料・生活必需品などの備蓄の準備、感染予防に必要なマスク・体温計の用意など、日頃から「起こるかもしれない複合災害」への備えを進めていただきたいと思います。

何より大切なのは命。

笑顔で暮らす日常を取り戻すその日まで、

非日常の災害に備えつつ、前を向いてこの難局を共に乗り越えましょう。



国家公安委員会委員長、防災担当大臣

衆議院議員 武田良太